



ロギングトラクターを操る藤村さんの雄姿。カッコイイ!!

第8回森林塾報告 テーマ「伐出」 『伐ったら出して、なんとか使う』

林業白書によると約八百万ヘクタールある民有林の人工林のうち、早急に間伐を必要としているのが百五十万ヘクタールほどで、最近の間伐実績は年に二十万ヘクタール程度であるという。なかなか追いつかない。昭和四十年代から五十年代に植えた間伐の必要な込んだ林はまだ増え

続けていくし、人工林の蓄積はどんどん増えてはいるのだけれど質が伴わない。

奥山の国有林も同じ悩みを抱えていて、日本の国土面積の三割にあたる人工林一千万ヘクタールはこの先一体どうなっていくのだろう……。なんて考えて一人部屋の中で暗くなっている人は森林塾関係者の中にはまあ、いません。とにかくチェーンソーを持って山に行く。中でぐると一周見回してどれくらい間伐す



前回の間伐の時に比べ、一步前進しました坂田さん。



やまびこ号の操作は至極簡単

ればよいのかの見当を付ける。そして伐った木をどうやって出すのか、何に使えるのか、おおかたイメージしてやおらチェーンソーのエンジンをかける。現場についてこの間約三十分。

今回のテーマ「伐出」は伐倒から集、運材までの一連の作業を指すのですが、なかでも集材、いわゆる「出し」を中心とした作業をさすことも多く、それらに使われる機械などを見てもらったり操作してもらったりしました。何十年か前のように丸太を担いだり、木馬で引くというようなことはとても真似は出来ませんし、残念ながらそういう仕事を牛や馬も近くには見当たらないのでウィンチのついた機械などにお世話にな

今回の内容

第7回 8月26日(土)

伐出

8時30分 島崎先生の山小屋に集合。先生方のあいさつ、スケジュール説明。車に分乗して伊那市野底



エンジンとウィンチがくっつき、出しは昔に比べ容易になりました。

12時

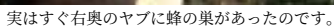
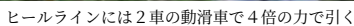
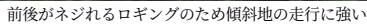
昼食

1時 鳩吹公園に戻り、1時30分 小屋横の架線の緊張を始める。

2時

自走式集材機『ラジキャリ』の試運転、集材開始。併行して携帯ウィンチ『ひっぱりだこ』での集材。いずれも順調に動いていましたが、終了間際にイントラ後藤、運悪く材がコナラの若木を揺すり、そこにバレーボールほどの巣を掛けていた蜂に刺される。縄文さんの見立てではコガタスズメバチとのこと。太田さん持参の





後に起こる不幸も知らずに丁寧に説明をするイントラ後藤。



①中央垂下比 今回の架線の

支柱間の距離は約八十五

n 傾斜にはほとんどない
のでゼロと仮定して、主

索のたるみ（中央垂下量）

が水平距離八十五mのど

一般的には3〜4%程度で

す。普通の張り具合とし

3.4 m の範囲。今回の中央垂下量は 2.1 m である。

②主索の検定

緊張すると元柱、先柱や

な力が掛かることになる

危険です。また緊張が足

りない場合主索のたるみが大きく集材に支障を来

す場合もあります。簡便

に中央垂下量を量る方法



続ける。

日働き

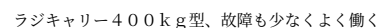
怪油で1

トルの軽

5 リッ



として振動波による方法があります。無負荷状態で支柱に近いところをラチェットなどで叩き、その振動が主索を往復する時間を計ります。それを t (秒) とすると中央垂下量 $f=0.306t^2$ となります。これから中央垂下比を算出して、緊張具合を確かめます。



「日本林業の問題、それに自分
はどう関わっていくか」
具呂 啓一郎

今年の九月で、森林組合に入社してちょうど二年。長かったような、短かったような。

以前やっていた仕事では、将来の自分の展望が発見できなくて、何かないかなと、就職情報誌をめくっていたら、「田舎へのＵターン・Ｉターン」の項目があり、林業のページを深く読んだのが、人生の転機となった。チャンス



きな組織で、事務部門と外の作業部門がはつきり分離されている仕組みには、そういう上意下達の役所体質が色濃くあるようだ。

もともと信州上小森林組合とは、上田市とその周辺の村々の小さな森林組合をいくつか合併させて、上田市を本所に、その他を四つの支所とした五つの事務所の総称である。合併すれば仕事量や資材、費用面でいろいろ融通がきくようになる。森林組合では珍しく、月給制、第三土曜以外の土曜日休日、その他の待遇が良いのも、合併がなければ未だに実現していなかったらう。

組合の仕事は、国や市から頼まれた山仕事、松くい虫防除、土留め柵づくりなどが主な仕事である。これらの仕事のなかで、今シーズンにいたるまでに一番繁盛した仕事は、山仕事ではなくて松くい虫防除である。上田市は全国でも有数の松くい虫汚染地域で、毎年何ヶ月もこの作業を続けていてもほとんど被害は減らない。しかし皮肉にもこれは、森林組合にはある意味、都合が良いことなのかもしれない。現在森林組合の仕事量、市からの補助金はかなりの割合で松くい虫防除が占

めている。効果が上がっていないと随分前から分かっていても、今までなぜ続けていられたのかは森林組合からの要望と、市の松くい被害の実情の把握不足が一致したためであらう。ただ来年からは市の方もようやく分かったのか、今までの物量作戦を見直すらしい。

それにしても本来圧倒的比重を占めるのが当然のはずの山仕事より、100%補助金頼りで利益など関係ない松くい虫事業の方が比重が大きくなるのはやはり木が売れないのが根本の理由であらう。上小森林組合は人手も機械も他の組合よりは整っているはずだし、金銭面も何とかなるはず。しかし日本林業の問題の解決にはまだまだ遠い。この問題は政治問題、経済問題にまで絡む、深刻で根が深い問題のようだ。日本各地で森林組合が合併し、人がたくさん入っても間伐されていない森林全部を整えるには長い年月がかかるだろうし、国産材が売れないこの時代にそんなに多く人を呼ぶことも難しい。

自分がこの森林塾へ来た理由には二つ。変に構えさせずに、山や自然に興味のある人、個人の山持ちに訴え、日本全体の森林再生のために一口も含めともに協力していうという大きな考え方、それに基づいた実行力に共鳴した

から。そしてもう一つは、自分自身で山を育てていけるようになりたくて、そのための実践的な知識が欲しかったからである。森林や木に、もっと時間をかけて、深く関わっていききたい。将来の夢のためにも。

リレー通信

「海の中から伊那谷へ」

宇津 孝



「なぜ長野なの？」
昨年末に伊那谷に引っ越してから、数え切れないほど同じ質問を受けました。
自分と自然との関わりを振り返るとき、出発点は大学時代に始めたスクーバダイビングです。ほとんど授業にも出ずに、1年の半分以上を沖縄の離島や八丈島のダイビングで、ショップで居候生活をしながら過ごしていました。海と島が好きで、大学卒業後は小笠原諸島の父島に移住し、ダイビングサーブिसに勤めました。仕事の内容はレジャーで潜りに来る方々を海の中に案内するガイドです。その頃の小笠原に潜りに来る人は少なかったのですが、お客さんがいない半年間は漁業もやっていた。僕を雇ってくれたダイバー兼漁師である親方は職人肌で高い技術を持ち、いつも真剣に仕事をする方だったのですが、今思えば一緒に働いた数年間に、自然と関わっていくための大切な基礎を教えていただいたような気がします。
父島に移住した当初は、将来独立してダイビングショップを持つのが夢だったので、何年も仕事をしていなかった。海で出会うクジラの雄大さやイルカの美しさにのめり込み、「島在住のカメラマン」としてやっていくことにしました。
ザトウクジラ、マッコウクジラ、バンドウイルカ、魚類などの水中生物、海鳥、野鳥や植物など孤島の陸上生物、島の風景・・・季節ごと天候次第でいろいろな生物と時間を過ごす。夜明けから日没までを海で過ごすことも

しばしばでした。
生物や自然の撮影ではカメラを構える瞬間はわずかで「待ち」の時間が大半です。クジラやイルカが現れるのをのんびりと待っているときなどには、僕の頭の中に浮かんでくるのは、不思議なもので、自然や生物のことではなく人間や社会のことばかりでした。具体的には経済や歴史、心や魂のこと、環境問題、価値観・・・などです。
小笠原諸島は今も月に5回の船便しか通わない人口2000人程の離島です。島という閉じた環境は、僕にとっても分かりやすい日本の縮図でした。食料を含むほとんどの物資が外(本州)から船で運ばれ、島内で消費分解しきれないものはすべてゴミになり、経済は公共事業中心で自然はほとんど破壊されています。狭い島なので、どこの誰々が役人や土建屋、議員をやっているなどということまで分かっています。それでも開発の終わりがどこにあるのか、誰も知っている人はいません。そんな島という環境で社会のしくみや自然のことを学びながら、「なぜ社会は今のようになったか」「これからどうなっていくか」という答えを僕なりに見極めることができました。
戦争、差別、公害、環境問題など、現代社会が抱える問

題の根本的な原因はすべて人の心や価値観にあるということ、そして、もし今の方向性のまま変わらなければ、21世紀のかなり早い段階で現代文明は世界的に崩壊し、とてもなく悲惨な事態が訪れるということを確認したのである。もしそれが本当に現実になるならば、途上国の人たちが未来の子供たちに対して、先進国で「豊かな生活」をしている僕はまぎれもなく「加害者」の一員なのです。

このことに気が付き始めて以来、「自然の中で気ままに撮影をする」というとても魅力的な仕事が自分にとって色褪せ始め、「こんなこと（撮影）をしている場合ではない」「人としてもっと本質的な生き方をしたい」と思いが強くなっていました。

21世紀の社会が良い方向に向かうためには、価値観の変化はもちろん前提になるでしょうが、それ以上に難しいのは、僕たち自身の生活を変化させることです。とくに環境問題の根本にあるのは「心のあり方」や「価値観」なのですが、物質的な原因は僕たちの日常生活にあります。心のあり方や価値観が変化しても、日常生活が物理的に大きく変わらなければ、やはり未来には悲惨な結果が訪れるでしょう。そして、社会を本当に良い方向に変えることがで

きるのは、政治や行政などトップダウンの流れではなく、ひとりひとりの人の価値観と生活が大きく変わっていくこと以外にはあり得ない気が付きました。

それでも、こんな思いを抱き始めてから、小笠原と御蔵島での仕事に区切りを付けるのに結局4年程もかかってしまい、やっと昨年末をもって10数年にわたった島暮らしに別れを告げ、本州・伊那谷に移住してきたのです。

なぜ、長野なのか。実は伊那谷のことがとくに好きだった訳でもないのに、長野である必要はまったくなかったのですが、島では米作りができないので、たまたま知り合いがいる駒ヶ根に移って来たのです。

これからの人生は「食の自給」をまず第一歩として、過去にも未来にも本当の意味で「持続できる人の暮らし」を作っていきたいと思っています。とりあえず今年は新生活一年生なので、水田3アール、畑6アールをやっています。

また「地に足の付いた暮らし」を実際に始めると長期取材などはほとんどできなくなるので、今後は自分のやっていることを題材に撮影や執筆をして本作りをしていきたいと思っています。ちなみに構想中のものとしては、「米作

りの写真絵本」「森と人の関わり・林業の写真絵本」などです。

スクーバダイビングから始まった僕の旅も、なぜか伊那谷に着地（上陸？）してしまっていました。今まで10数年間培ってきた海の技術があまり役立たないのがとても残念なのですが、新しいことを身に付けるというのは、やはりとても新鮮で楽しいものです。

山や森と関わっていく本物の技術を少しずつ身に付けていきたいと思っています。

森林塾の皆様、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

宣伝1

ますみヶ丘から車で10分ほどの伊那市西箕輪で、僕の農業の師匠・滝沢郁雄さんが有機農業をやっています。伊那谷から届ける「おいしい有機野菜の宅配」をいかがでしょうか？

お申込みTEL&FAX 0265-78-5190（滝沢さん）

宣伝2
今まで写真集を2冊出しました。ご覧下さい。

「マッコウの海 小笠原」山と溪谷社 ¥2,800
「イルカの世界 巨樹の森」TBSブリタニカ

¥2,400
もし書店で手に入らない場合には、私へのお申込みも受け付けています。

TEL 0265-81-4559
FAX 0265-81-4560
E-mail: UZUNAKI@aol.com

宣伝3
HPもご覧下さい。
URL: <http://online.divers.ne.jp/uzu>



南島 扇池 (<http://online.divers.ne.jp/uzu>より)

◆コラム◆

24日(木) 19時よりSBC(信州ローカル)で「誰が山を守のかー荒廃する信州の森」という番組が放映されました。島崎先生はもちろん、森林塾のBコースの模様が映るのは今や珍しくなくなりました。が、早川さんの勤務風景、保科先生の山仕事というのはなかなか他では見られないのでは？。県内の林業の現場の方々のインタビュー、市場での売買の様子、過去の映像なども入り、バラエティー番組の多い時間帯には異色とも思える構成でした。私個人的に

は、後継者についての質問に答えた保科先生の言葉と表情が印象に残っています。番組のテーマを象徴するような気がして：。県外の方、県内でも見逃した方はビデオでどうぞ。[OLIVE三輪]

◆立ち寄り情報◆

三伏峠(標高2,607m)
塩見岳や南アルプス縦走の基点となる峠です。8月2日、花を見に日帰りで行ってみました。伊那から大鹿村の鳥倉林道の終点まで約一時間半、そこから峠まで約三時間の行程。花を見ながらの歩きやすい道なので、楽に登れます。頂上の三伏峠小屋での缶ビールは六百元(冷えてはいませんが)。今年は雪が多く花が遅いと言われており、峠付近のお花畑には、ハクサンチドリ、シナノキンバイ、グンナイフウロなどが咲いていました。帰りに小渋温泉や鹿塩温泉に入り、汗を流すこともできます。因みに縦走するワンゲルの女子大生がたくさんキャンプしていましたよ。詳細は女子大生にすかさず話しかけていた、じよんのび藤原まで。[OLIVE三輪]

【森林と市民を結ぶ全国集い】のお誘い

9月15日から17日の3日間、東京代々木で「森林と市民を結ぶ全国集い」が開催されます。KOA森林塾の田

中さん、早川さんそれに山仕事塾の川原さんがそれぞれ異なる分科会で発表されます。また、浜田(く)は森づくりと家づくりからみの分科会を担当しています。参加費は三日間で四千元、遠方の方のためには宿があります。たまには体ではなく頭と口を使うシンポジウムというのはいいかででしょうか？詳しい資料は森づくりフォーラム内「森林と市民を結ぶ全国集い事務局」まで。電話0262-72-8217「浜田(く)」

◆おわりに◆

今年は伊那谷も残暑が厳しくいまだ30℃を超す日が続いていますさすがに朝晩は涼しくなってきました。皆さんい夏を過ごせたでしょうか。夏の終わりはいつも何かやり残したような何か忘れ物をしているような感覚にとらわれます。森林塾も一ヶ月の夏休みの後、後半が始まりました。またまた遠くからたくさんの方に集まって頂きました。さあ後半も頑張るぞ!!

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。
TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp
mi-tsuboki@koanet.co.jp
携帯:0902-53-26375 (開催日)

